

第3章 現状分析

1 少子化の進行

2 少子化の要因

3 就労状況と子育て

4 保育の状況

5 子ども・子育てを
めぐる問題の動向

第3章 現状分析

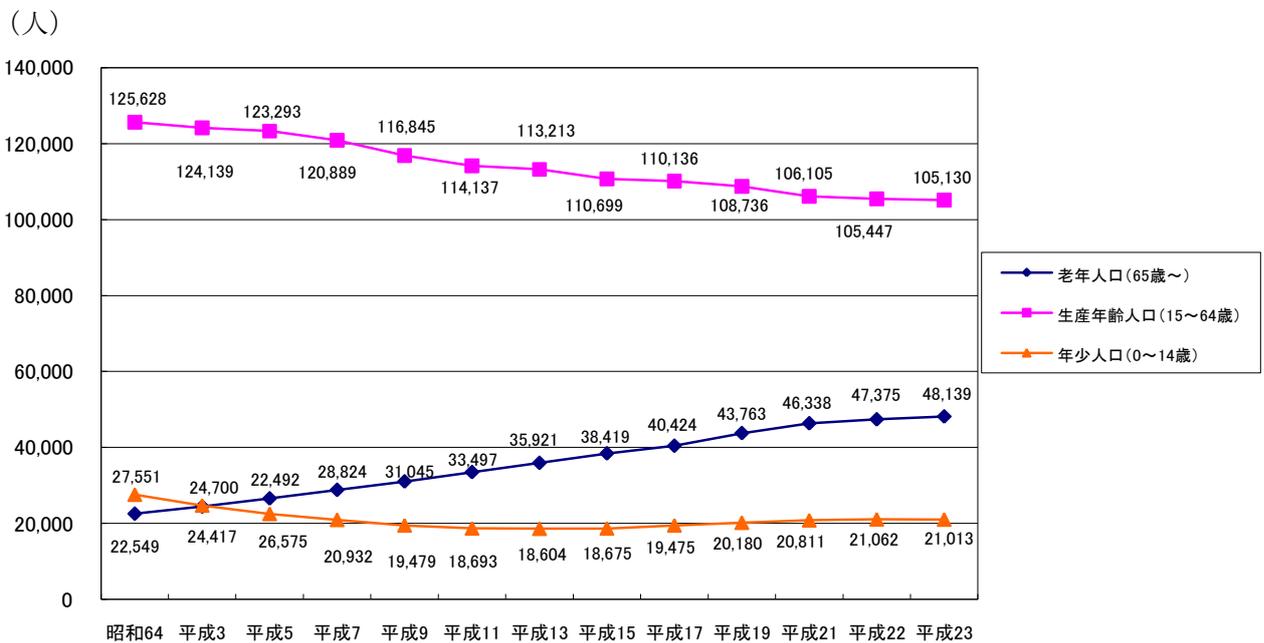
1 少子化の進行

(1) 年齢別（3区分）人口の推移（鎌倉市）

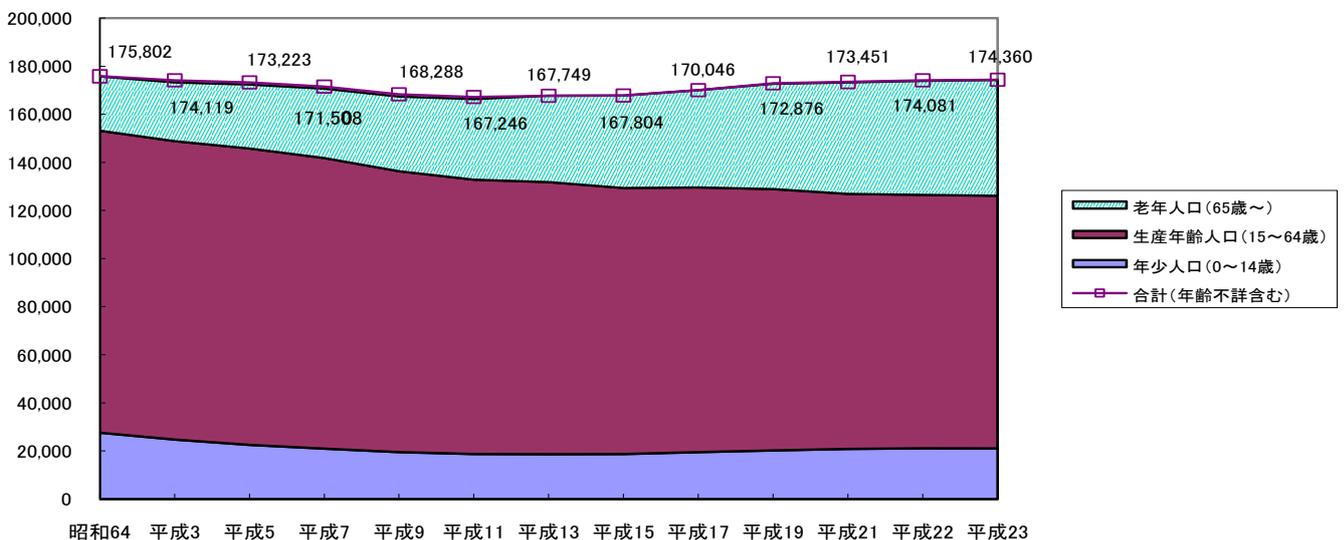
鎌倉市の人口は昭和64年以降減少が続きましたが、平成11年以降増加に転じ、平成17年に平成7年以来の17万人を超えました。

0歳から14歳までの年少人口は、平成4年に老年人口（65歳以上）を下回りましたが、近年、子育て世代の転入などの影響により、年少人口も若干増加傾向にあります。

■ 図1 年齢別（3区分）の人口推移（折れ線グラフ） ■



■ 図2 年齢別（3区分）の人口推移（面グラフ） ■



(2) 地域別児童人口（0～14歳）の推移（鎌倉・腰越・深沢・大船・玉縄地域）

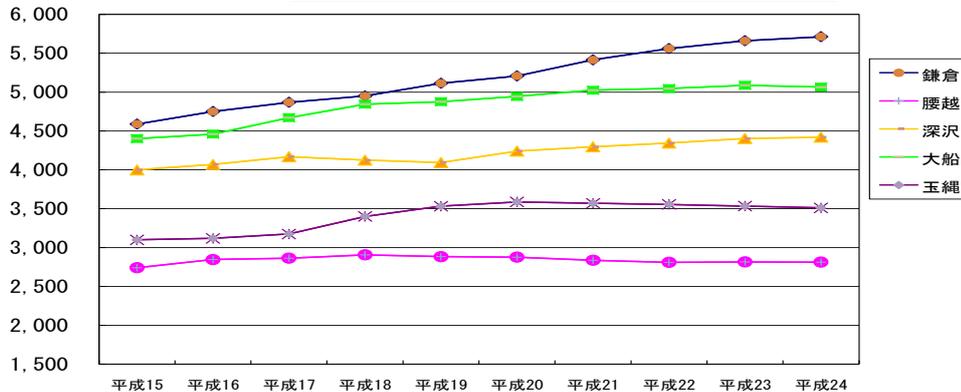
児童人口は近年増加しており、なかでも鎌倉地域が伸びており、平成24年は前年比100.9%の伸び率となっています。

資料：住民基本台帳
各年4月1日現在

■ 表1 地域別児童人口（0～14歳）の推移 ■

	平成15年	平成16年	平成17年	平成18年	平成19年	平成20年	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年
鎌倉	4,588	4,750	4,869	4,950	5,114	5,208	5,415	5,560	5,661	5,713
腰越	2,741	2,846	2,864	2,906	2,884	2,877	2,837	2,810	2,815	2,812
深沢	3,999	4,070	4,169	4,125	4,095	4,241	4,296	4,344	4,403	4,420
大船	4,402	4,460	4,671	4,845	4,877	4,945	5,025	5,047	5,088	5,065
玉縄	3,099	3,118	3,175	3,400	3,532	3,587	3,569	3,555	3,533	3,511
合計	18,829	19,244	19,748	20,226	20,502	20,858	21,142	21,316	21,500	21,521

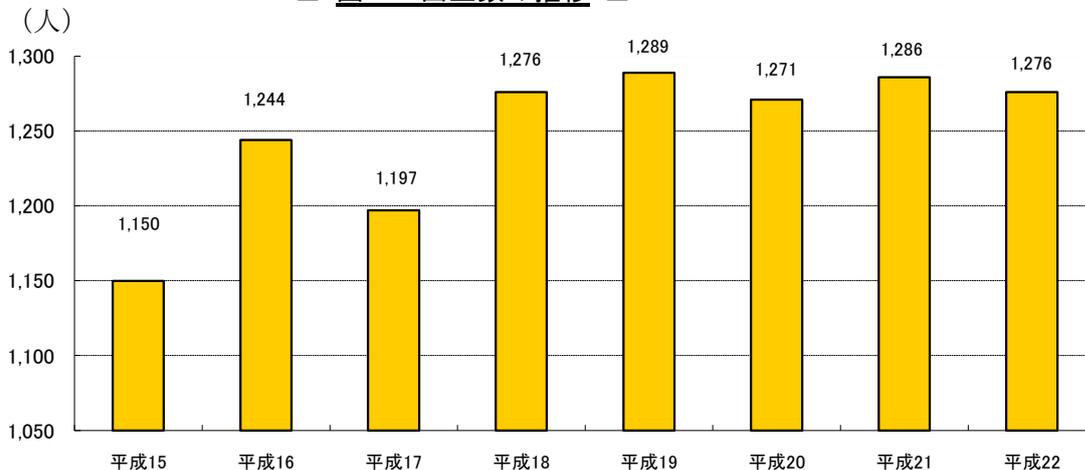
■ 図3 地域別児童人口（0～14歳）の推移 ■



(3) 出生数の推移（鎌倉市）

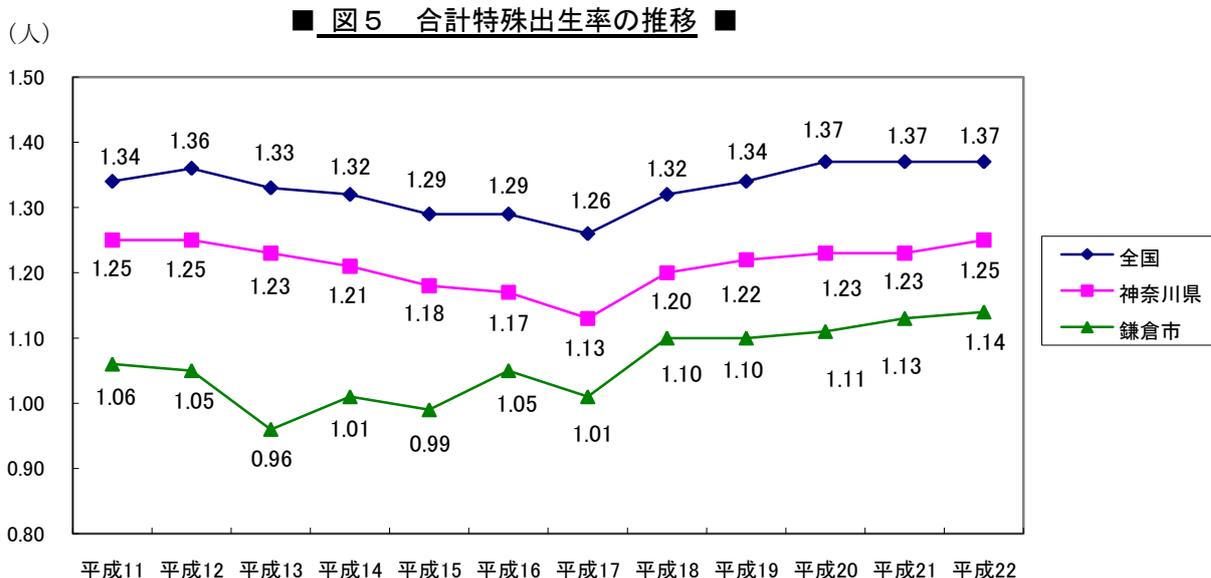
鎌倉市の出生数は、平成18年から2年連続で増加し、その後増減はありますが、1,270名以上で推移しています。

■ 図4 出生数の推移 ■



(4) 合計特殊出生率の推移（全国・県・鎌倉市）

鎌倉市の合計特殊出生率は、全国や県を下回って推移していますが、鎌倉市ではここ数年上昇傾向にあり、平成22年に1.14まで回復しました。

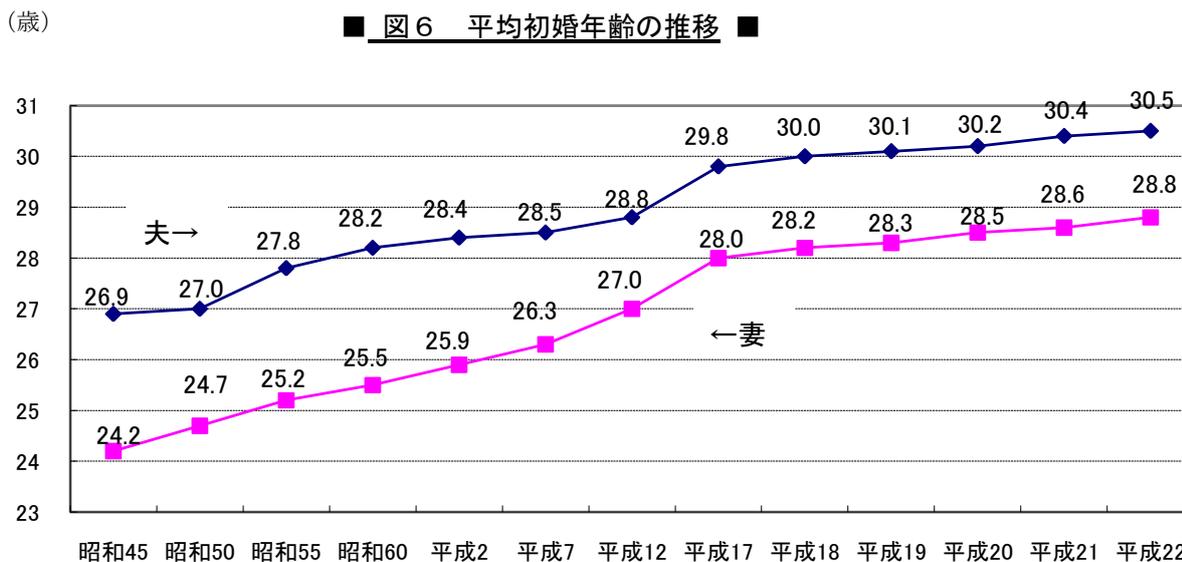


資料：(全国) 厚生労働省「人口動態統計」
(神奈川県・鎌倉市) 神奈川県衛生統計年報

2 少子化の要因

(1) 晩婚化（平均初婚年齢の推移）（全国）

平均初婚年齢は、平成22年で、夫が30.5歳（対前年比0.1歳上昇）、妻が28.8歳（対前年比0.2歳上昇）と上昇傾向を続けており、結婚年齢が高くなる晩婚化が一層進んでいます。



※同居し届け出た時の年齢。
資料：厚生労働省「人口動態統計」

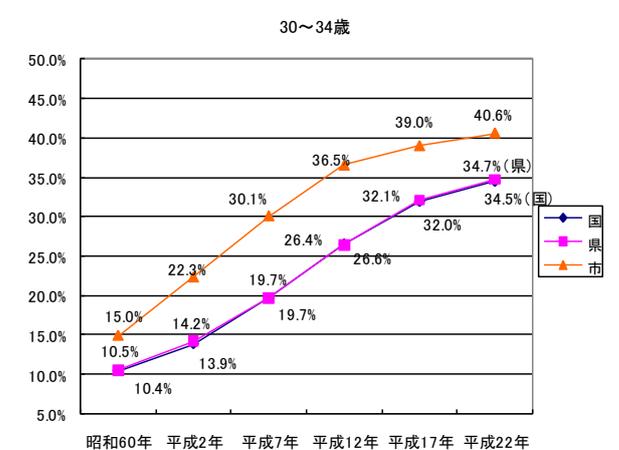
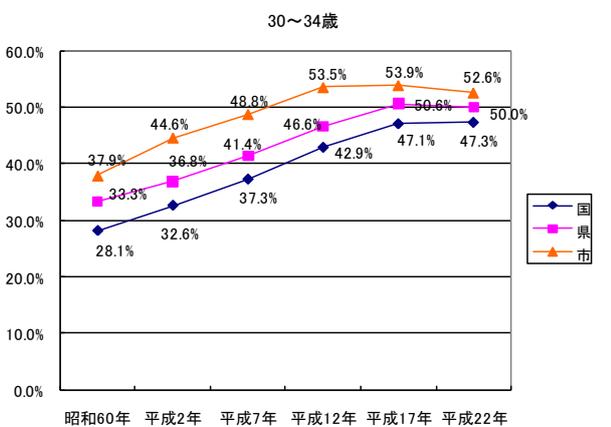
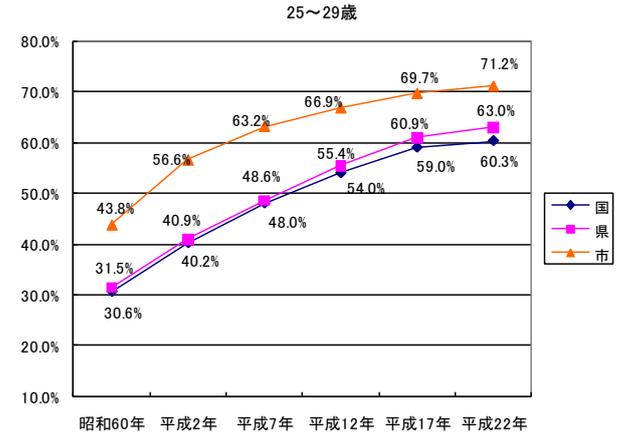
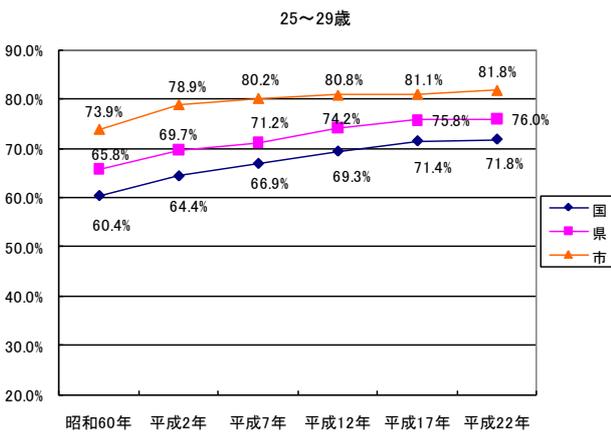
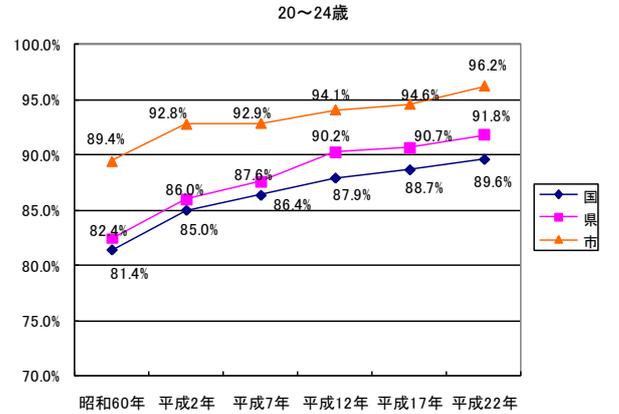
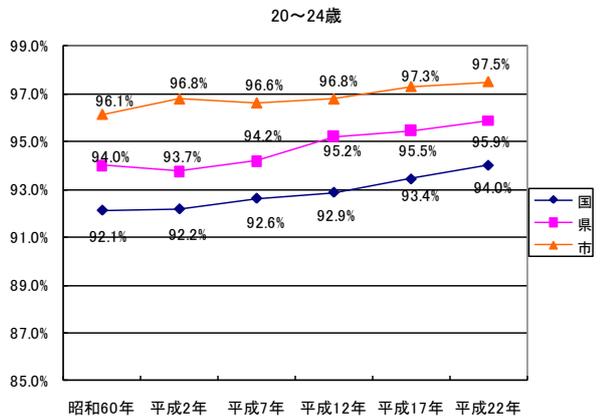
(2) 未婚化（未婚率の推移）（全国・県・鎌倉市）

年齢別の未婚率をみると、男女とも上昇傾向にあり、晩婚化が進行しています。特に女性の30～34歳で、顕著に未婚率の上昇がみられます。また、鎌倉市の未婚率は全国、県を大きく上回っています。

■ 図7 未婚率の推移 ■

<男性>

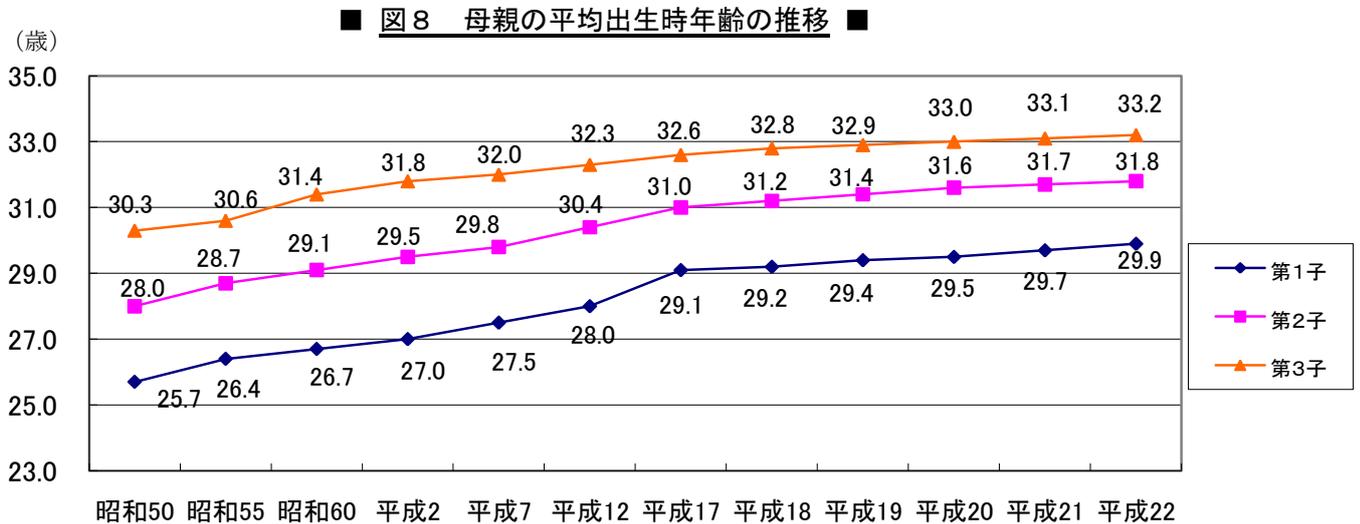
<女性>



〔資料：国勢調査〕

(3) 晩産化（母親の平均出生時年齢の推移）（全国）

晩婚化の傾向に伴い、出生したときの母親の年齢も遅くなる晩産化が同時に進んでいます。昭和50年には、第1子出生時の母親の平均年齢は25.7歳でしたが、平成22年には29.9歳と4.2歳上昇し、その結果、第2子、第3子出生時の平均年齢も上昇しています。高年齢になると出産を控える傾向にあるため、晩産化は少子化の一因とされています。

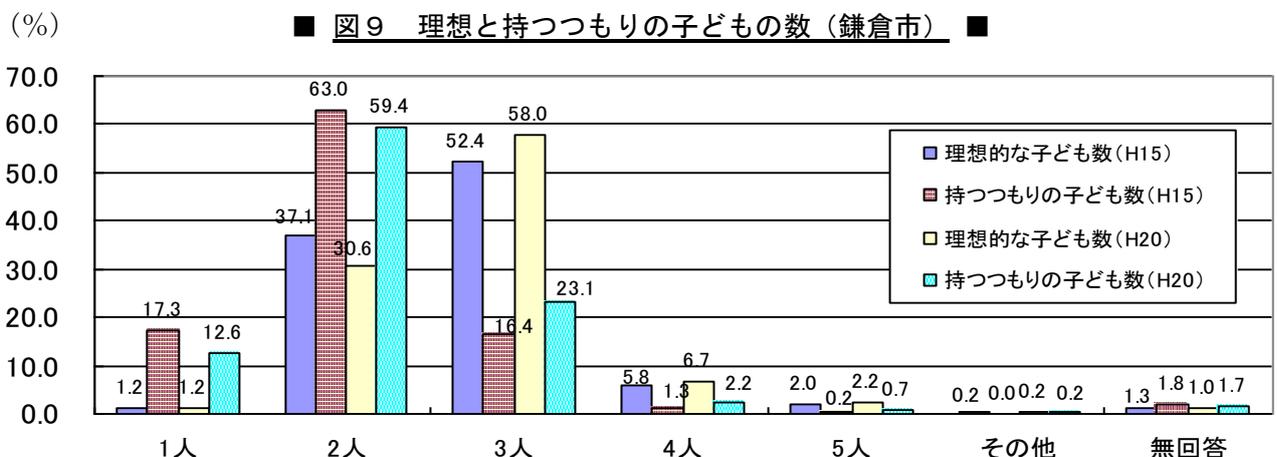


〔資料：厚生労働省「人口動態統計」〕

(4) 理想的な子どもの数と持つつもりの子どもの数の違い（鎌倉市）

理想とする子どもの数に対し、実際に予定している子どもの数は常に下回っており、夫婦の出産に関する希望がかなえられていない現状がわかります。

しかし、鎌倉市の平成15年度と平成20年度の就学前児童を持つ保護者への調査を比較すると、理想的な子どもの数も持つつもりの子どもの数も「3人以上」と答える人の割合が増加し、出産に関する希望や予定が上向いてきています。

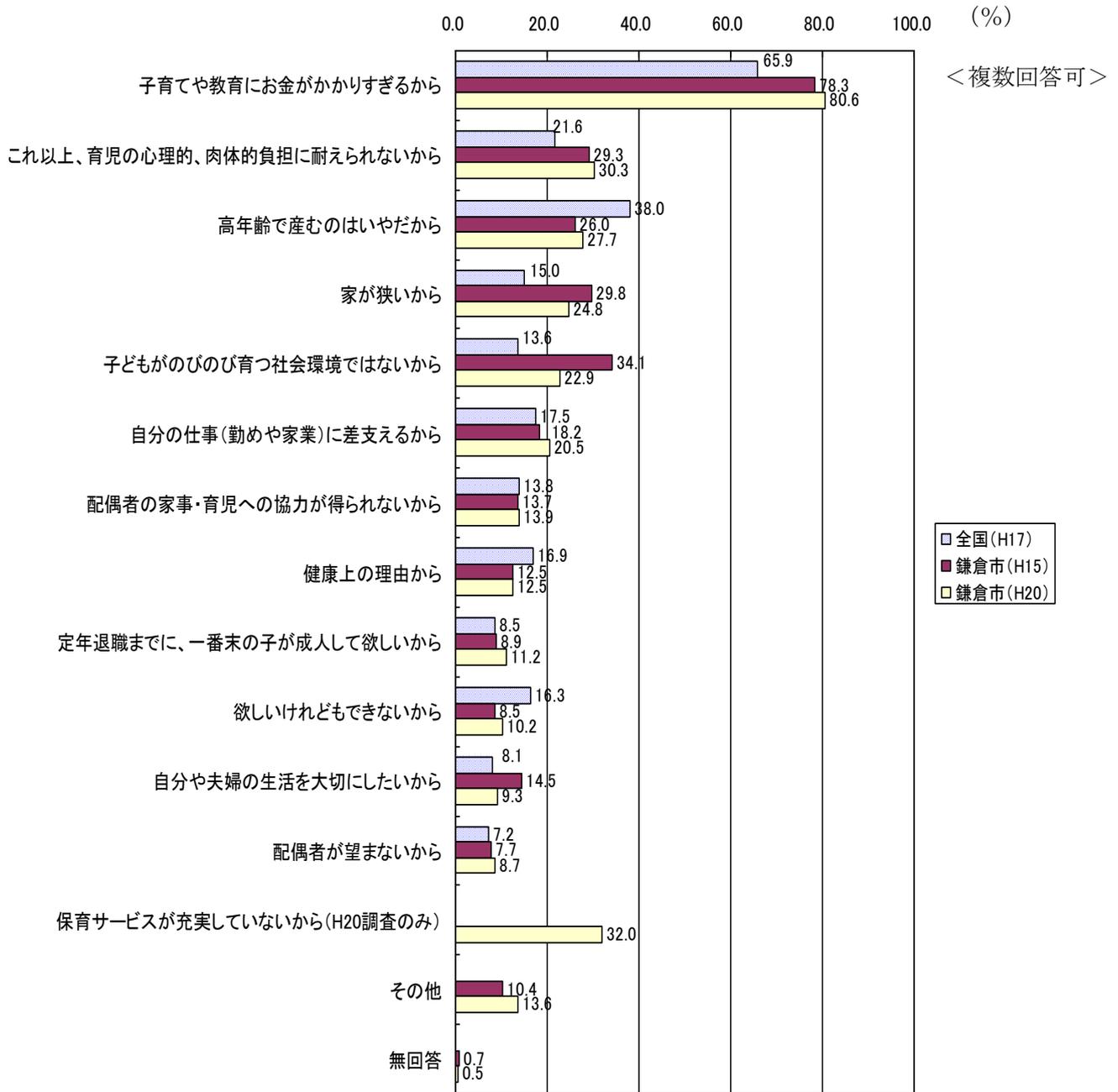


資料：こどもみらい課 「次代育成支援に関するニーズ調査（就学前児童）」（平成15年度）
「次代育成支援に関するニーズ調査（就学前児童）」（平成20年度）

(5) 子どもが理想より少ない理由（全国・鎌倉市）

持つつもりの子どもの数が理想の子どもの数より少ない人に、その理由を聞くと「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」が全国、鎌倉市ともに最も多い回答となっており、特に平成20年度の鎌倉市の調査では8割超の人が経済的負担を理由に挙げています。

■ 図10 理想の数の子どもを持つとしない理由 ■

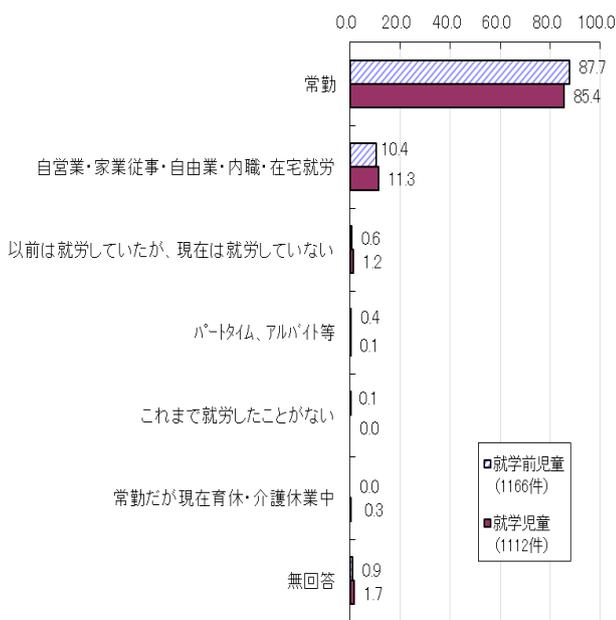


資料：こどもみらい課 「次代育成支援に関するニーズ調査（就学前児童）」（平成15年度）
「次代育成支援に関するニーズ調査（就学前児童）」（平成20年度）
国立社会保障・人口問題研究所「第13回出生動向基本調査」（平成17年）
調査客体…全国の25歳以上50歳未満の妻で予定子ども数が理想子ども数より少ない者に対する調査

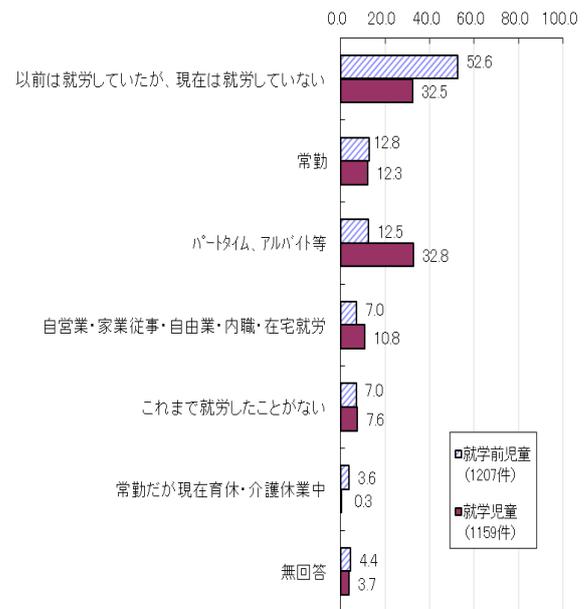
3 就労状況と子育て

(1) 父親、母親の就労状況（鎌倉市）

父親の就労状況をみると「常勤」の割合が約9割となっています。母親の就労状況をみると、就学前児童では「以前は就労していたが、現在は就労していない」の割合が最も高く、結婚や出産を期に離職したことが伺えます。また就学児童では「パートタイム、アルバイト等」の割合が高く、離職後、再就職をすることの困難さが伺えます。



■ 図11 父親の就労状況 ■

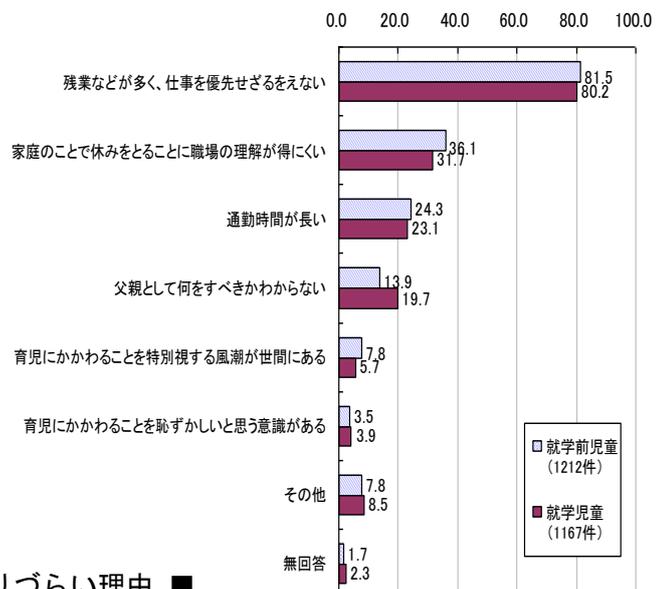


■ 図12 母親の就労状況 ■

〔 資料：こどもみらい課 「次代育成支援に関するニーズ調査」(平成20年度) 〕

(2) 父親が子育てにかかわりづらい理由（鎌倉市）

父親が子育てにかかわりづらい理由についてみると、「残業などが多く、仕事を優先せざるをえない」の割合が約8割となっており、仕事と家庭生活の両立ができていないことが伺えます。

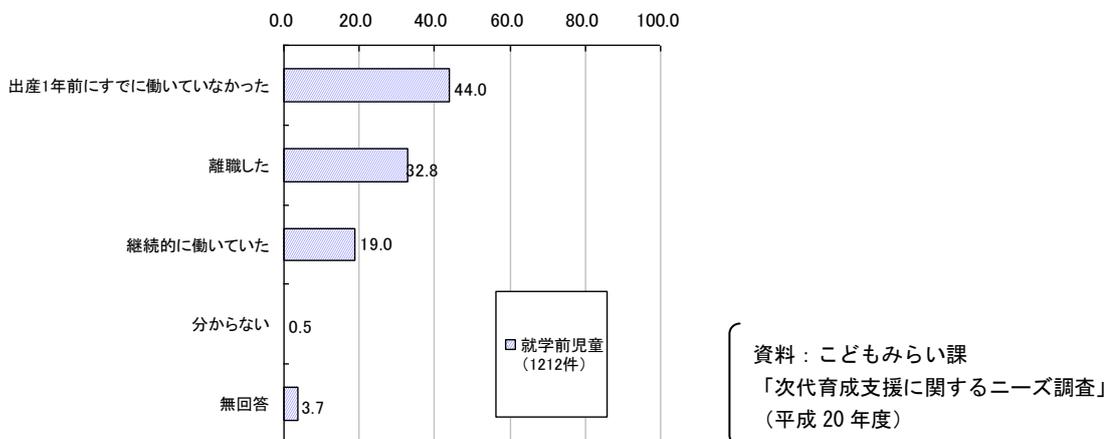


■ 図13 父親が子育てにかかわりづらい理由 ■

〔 資料：こどもみらい課 「次代育成支援に関するニーズ調査」(平成20年度) 〕

(3) 母親の出産による離職状況（鎌倉市）

母親の出産による離職状況を見ると、「継続的に働いた」の割合が 19.0%となっており、約 8 割の人が出産に伴い離職していたことが分かります。



■ 図14 母親の出産による離職状況 ■

4 保育の状況

(1) 保育所の入所児童数等（鎌倉市）

平成24年4月現在、鎌倉市には20（公立6、私立14）の認可保育所（※）があります。入所児童数は平成23年度の1,995人から平成24年度には2,037人と大幅に増加しました。

また、定員に対する入所率は、平成17年度から増加傾向にありましたが、平成23年度以降減少に転じ、平成24年度には106.0%となっています。

※ 認定こども園の認可保育所を含む

■ 表2 認可保育所の定員数・入所児童数等 ■

区分	公立	私立	合計
保育所数	6	14	20
定員数（人）	540	1,382	1,922
入所児童数（人）	584	1,453	2,037

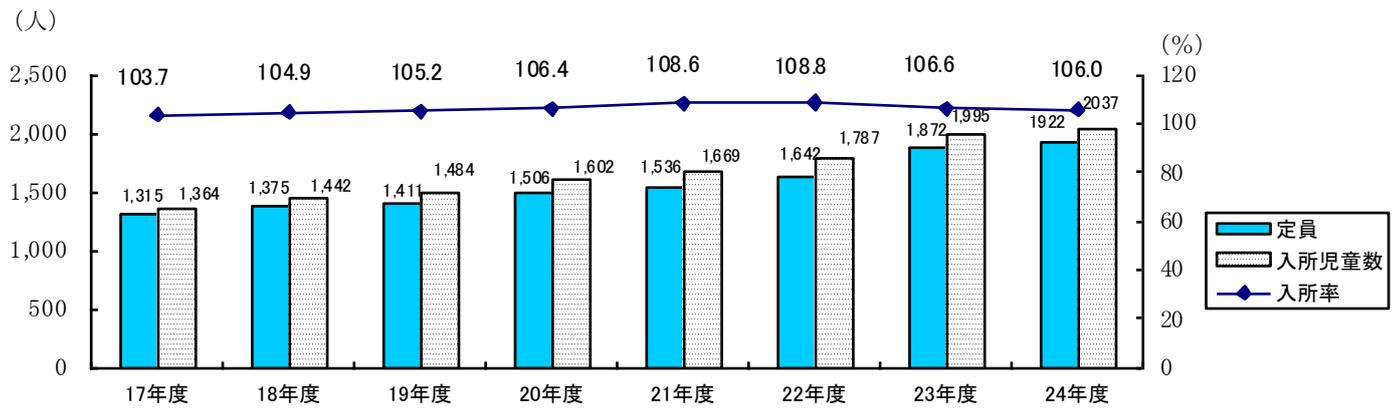
資料：保育課
平成 24 年 4 月 1 日現在

■ 表3 認可保育所の定員数・入所児童数等の推移（受託児含） ■

区分	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
保育所数	15	16	16	17	17	17	19	20
定員数（人）	1,315	1,375	1,411	1,506	1,536	1,642	1,872	1,922
入所児童数（人）	1,364	1,442	1,484	1,602	1,669	1,787	1,995	2,037
入所率（%）	103.7	104.9	105.2	106.4	108.7	108.8	106.6	106.0
利用率（%）	17.4	17.9	18.4	19.8	20.6	22.0	24.4	25.2

※入所率は、定員に占める入所児童数の比率を示し、利用率は、0～5歳の人口に占める入所児童数の比率を示す。
資料：保育課 各年度4月1日現在

■ 図15 認可保育所の定員数・入所児童数等の推移 ■



(2) 保育所利用率の推移 (鎌倉市)

認可保育所の利用率は、平成17年度の17.4%と比較すると、平成24年度では、25.2%となっており、7.8%増加しています。

■ 表4 認可保育所の0～5歳人口・保育児童総数等 (受託児含) ■

(単位：人、%)

区分	0～5歳人口	保育児童総数	利用率
平成17年度	7,830	1,364	17.4
平成18年度	8,042	1,442	17.9
平成19年度	8,072	1,484	18.4
平成20年度	8,094	1,602	19.8
平成21年度	8,121	1,669	20.6
平成22年度	8,120	1,787	22.0
平成23年度	8,185	1,995	24.4
平成24年度	8,083	2,037	25.2

〔資料：保育課 各年度4月1日現在〕

■ 図16 認可保育所の0～5歳人口・保育児童総数等 ■



(3) 待機児童数の推移（鎌倉市）

保育待機児童数については、平成24年度は42人となり平成23年度の44人を2人下回りました。年齢区分では、0～2歳の低年齢の待機児童が多い傾向にありますが、平成23年度は0歳児の待機児童が0名となっています。

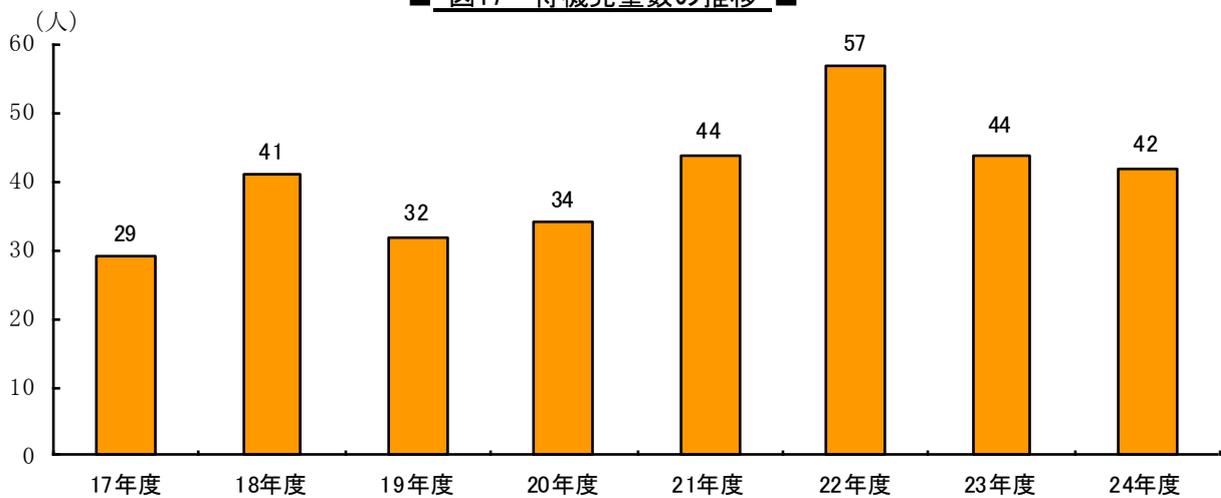
■ 表5 年齢区分別保育待機児童数（市） ■

（単位：人）

区 分	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
0 歳	4	3	3	3	9	13	7	0
1 歳	9	16	9	15	16	28	22	22
2 歳	11	15	15	15	15	12	7	16
3 歳	3	5	5	1	4	3	7	3
4 歳以上	2	2	0	0	0	1	1	1
合 計	29	41	32	34	44	57	44	42

〔 資料：保育課 各年度4月1日現在 〕

■ 図17 待機児童数の推移 ■



(4) 幼稚園の児童総数（鎌倉市）

鎌倉市には、幼稚園が23園（私立のみ）あり、鎌倉市在住の在園児童数は2,532人となっています。

■ 表6 幼稚園の定員数・在園児童数等 ■

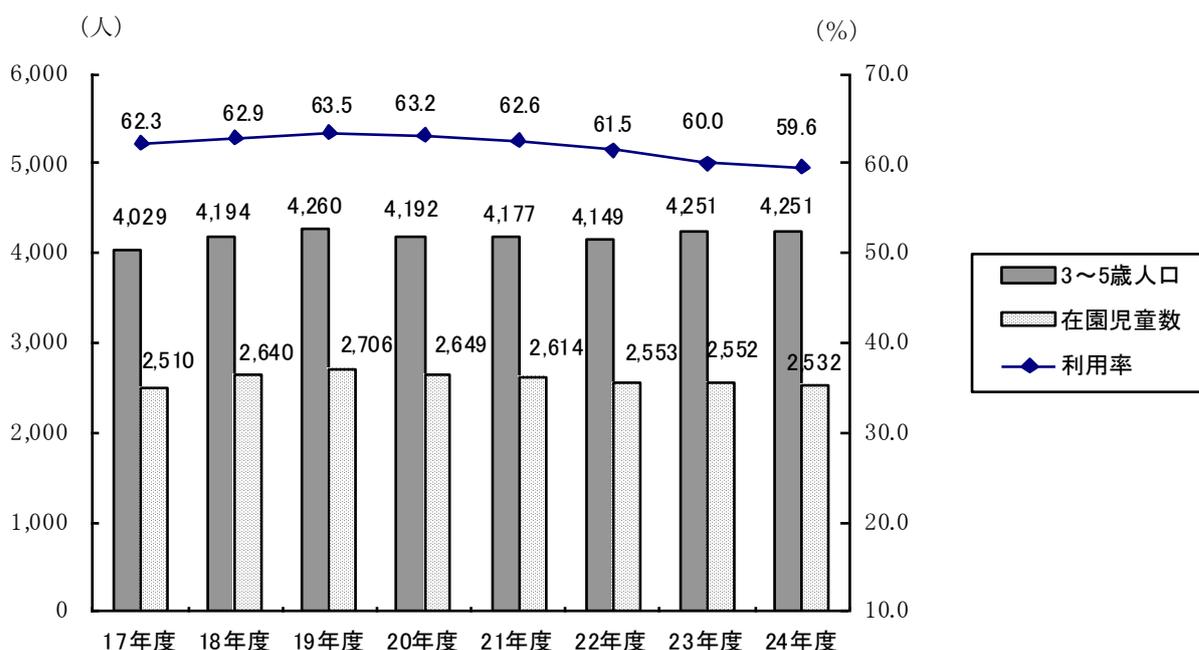
区分	公立	私立
園数(園)	—	23
定員数(人)	—	3,926
在園児童数(人)	—	2,532

■ 表7 幼稚園の定員数・在園児童数等の推移 ■

区分	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
園数(園)	23	23	23	23	23	23	23
定員(人)	3,955	3,955	3,986	3,996	3,996	3,996	3,926
在園児童数(人)	2,640	2,706	2,649	2,614	2,553	2,552	2,532
3~5歳人口(人)	4,194	4,260	4,192	4,177	4,149	4,251	4,251
入園率(%)	66.8	68.4	66.5	65.4	63.9	63.9	64.5
利用率(%)	62.9	63.5	63.2	62.6	61.5	60.0	59.6

※入園率とは、定員に対する在園児童の割合を、利用率とは、3～5歳人口に占める在園児童数の割合を示す。
資料：こどもみらい課 各年度5月1日現在

■ 図18 幼稚園の定員数・在園児童数等の推移 ■



(5) 子どもの家（学童保育）の状況

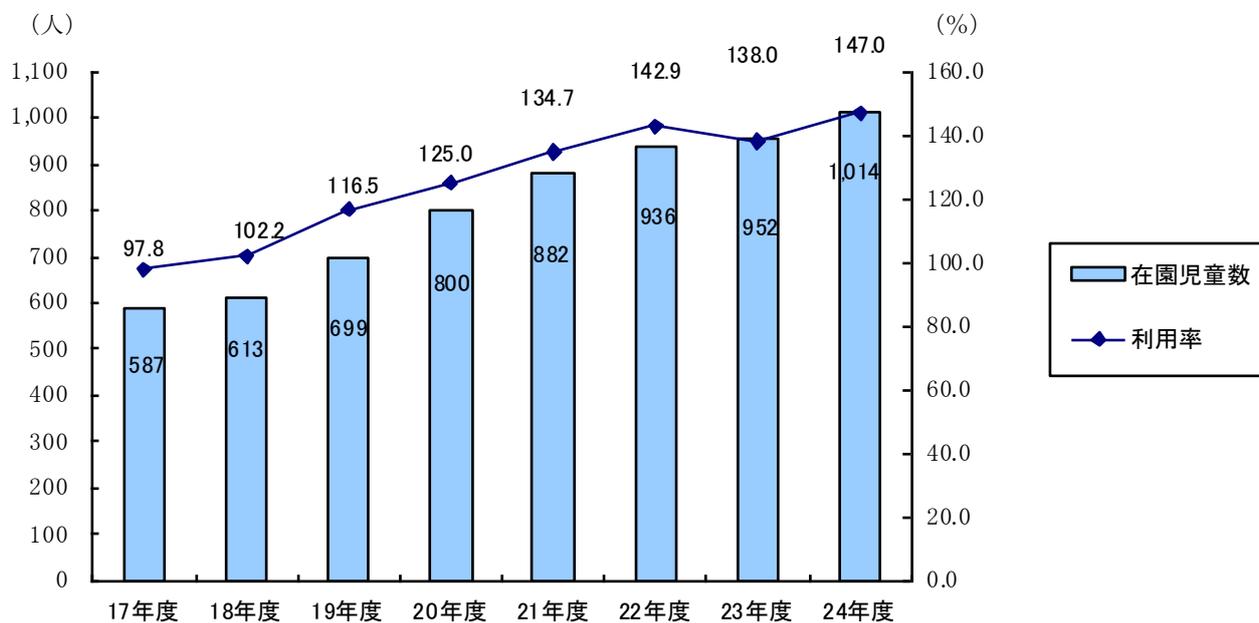
鎌倉市では、平成24年4月1日現在、子どもの家が16か所あり、在籍児童数は、1,014人となっています。また、定員数に対する在籍児童数の割合（在籍率）は毎年増加傾向にあり、平成23年度は減少したものの、平成24年度は再び増加しました。

■ 表8 子どもの家（学童保育）の実施箇所・在籍児童数 ■

区 分	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
実施箇所(所)	15	15	16	16	16	16	16
定員数(人)	600	600	640	655	655	690	690
在籍児童数(人)	613	699	800	882	936	952	1,014
在籍率(%)	102.2	116.5	125.0	134.7	142.9	138.0	147.0

資料：青少年課
各年度4月1日現在

■ 図19 子どもの家（学童保育）の在籍児童数と在籍率の推移 ■



5 子ども・子育てをめぐる問題の動向

(1) 子ども・子育てをめぐる相談件数（こどもと家庭の相談室相談状況）（鎌倉市）

平成17年4月に「こどもと家庭の相談室」を開設し、子どもと家庭の福祉に関する第一義的窓口として相談にあたっています。

■ 表9 依頼者別相談件数 ■

		母親	父親	祖父母	親類	市役所 他部署	関係機 関※	隣人・知人	民生委員 児童委員	本人	
17 年度	総件数	110	45	2	6	3	22	9	13	7	3
	比率 (%)	40.9	1.8	5.5	2.7	20.0	8.2	11.8	6.4	2.7	
18 年度	総件数	322	95	6	12	2	67	100	23	15	2
	比率 (%)	29.5	1.9	3.7	0.6	20.8	31.1	7.1	4.7	0.6	
19 年度	総件数	362	126	12	17	2	67	110	16	11	1
	比率 (%)	34.8	3.3	4.7	0.6	18.5	30.4	4.4	3.0	0.3	
20 年度	総件数	343	122	10	15	5	61	103	18	7	2
	比率 (%)	35.6	2.9	4.4	1.5	17.8	30.0	5.2	2.0	0.6	
21 年度	総件数	294	148	15	7	3	29	61	17	10	4
	比率 (%)	50.3	5.1	2.4	1.0	9.9	20.7	5.8	3.4	1.4	
22 年度	総件数	458	241	8	6	10	34	113	27	14	5
	比率 (%)	52.6	1.7	1.3	2.2	7.4	24.7	5.9	3.1	1.1	
23 年度	総件数	407	213	18	21	1	33	81	28	8	4
	比率 (%)	52.3	4.4	5.2	0.2	8.1	19.9	6.9	2.0	1.0	

※保健福祉事務所、ファミリーサポートセンター、子育て支援センター、
ケアマネージャー、病院、学校
資料：こども相談課

(2) 教育相談・青少年相談件数（教育センター）

■ 表10 教育センター相談室利用者数 ■

区 分	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
相談人数（新規）（人）	274	304	315	305	313	288
月毎の相談人数（人）	578	703	782	779	909	894
延べ相談件数（件）	1,502	2,102	2,138	1,775	2,170	2,195
延べ相談件数のうち訪問件数（件）	69	153	158	105	188	152

